

情報 C

情報モラル：情報の信憑性とコミュニケーション

1年3組

授業者 児玉 幸憲・中園 長新

■単元の目標

- インターネットなどで入手できる情報には信憑性が疑わしいものも含まれていることを理解する。
- 情報受信の際の送り手や情報発信の際の受け手の存在を意識した情報操作ができる。

■つきたい力

- 受信した情報を批判的に判断できる力。
- 受け手の存在を意識した適切な情報発信能力。

■ICT活用の視点

○情報を受信する道具としてのICTの活用

情報社会ではインターネットを経由して膨大な情報入手する。その中には個人による不確実な情報や悪意のある者による不正確な情報が含まれている可能性がある。授業では実際にインターネットで入手した情報を提示し、それらについて考えを深める。

○情報を発信する道具としてのICTの活用

プロフや掲示板、SNSをはじめ、今や高校生がインターネットを用いて全世界に向け、気軽に情報を発信することができる時代である。受信する道具として活用したICTを送信に用いることで、受け手の存在を意識した情報発信ができるようになると考えられる。

○情報を共有する道具としてのICTの活用

実習作品を Wiki に書き込ませることで、授業時・授業後に互いの作品を手軽に鑑賞し、評価することができるようになる。

■本時の授業の概要

授業はパソコンを用いた情報の受信・発信実習と、ワークシートを用いて考える活動によって構成される。実際にインターネットから受信した情報を提示し、情報の信憑性について考える。授業の後半では生徒が情報発信者として、受け手に適切な情報を発信することを考える。

学習活動	指導上の留意点
1.ワークシート準備	ワークシートは事前にIEIネットのメールで生徒に送付しておく。
2.化学物質についてのジョークサイト(教師による編集)を閲覧し、情報の信憑性について考える。	ジョークの内容をすでに知っている生徒については適宜対処する。
3.インターネット質問サイトの質問と回答を閲覧し、情報の信憑性について考える。	回答者の肩書きなどに着目させ、その信憑性についても考えさせる。 (評価) ネット上の情報はすべて正しいとは限らず、批判的に読むことが大切であることが理解できたか。
4.指示された情報について、ネット掲示板に書き込む文面を考えて Wiki に書き込む。	(評価) 受け手の存在を意識した文面を作成できたか。
5.文面を友人と発表し合い、受け手のことを意識できているか相互評価する。	文章の巧拙ではなく、内容が正しく伝わるかどうかに着目させる。 (評価) 友人の作品を批判的に評価することができたか。
6.本時のまとめ、感想記入。	